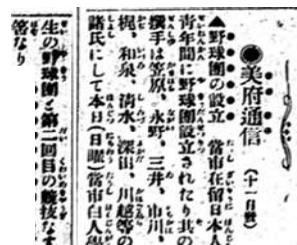


# 笠原清

氏名	笠原清
	Kiyoshi Kasahara
生年	1891年 11月 1日
死亡年	1942年 9月 9日 51才
出身地	神奈川県横浜市山吹町
父親	
母親	
兄弟他	
配偶者、子供	
朝日軍在籍期間	1918~1923
ポジション	C,2B,3B,P
記事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1907年12月カナダに渡航 15才</li> <li>・ビクトリア野球団加入</li> <li>・1918年朝日体育倶楽部監督就任 26才</li> <li>・1921年朝日タイガーに移動</li> </ul>
連絡先	



笠原清は1891年11月1日に神奈川県横浜市山吹町で生まれた。何時カナダに渡航したか知らないが1909年7月ビクトリア市に於いて在留青年邦人により野球チームが設立されたメンバーの中に笠原 18才の名前が有り、永野万蔵の長男である永野ジョージ辰夫 22才と一緒に野球をしていた事が載っているので1909年以前にビクトリアに居たと思われる。



その後、1910 年以来ビクトリアの野球チームで活動し、バンクーバーの日本体育倶楽部と対戦した時は笠原清はビクトリアの投手として或いは遊撃手として活躍している。

1918年に朝日野球団が人材を広く求めた時、笠原は朝日野球団に移籍し、監督兼内野手で1919年のインターナショナル・リーグ優勝に貢献した。

1921年、野村政太郎団長と意見が合わず、笠原清以下6名と朝日を脱退し別のチームを作る。  
そして野村政太郎と新聞紙上で論戦した。

1923年 笠原はフレザー・ミルの日本人野球チームのコーチに就いた。

1942年、日系人隔離政策により道路キャンプに行くが病気になり帰還、ヘイステンゲス公園内の病院で加療を受けるが1942年9月9日に51才で亡くなった。

ビクトリアの投手笠原

1911年7.3

1918.2.4

(4) 旭野球俱樂部總會 同俱樂部は  
昨日總會兼新年宴會を開催せるが  
新役員は左の如し  
俱樂部長松宮外次郎▲支配人伊  
藤一男△幹事武川武四郎▲會計  
福永周一  
此他顧問數名、野球部長、同部監  
督、キヤブテ等夫々決定したり

朝日野球倶楽部は新年会に合わせ総会を開催し新役員を決めた。

朝日野球倶楽部 部長 松宮外次郎 支配人 伊藤一男

幹事 武川武四郎 会計 福永周一

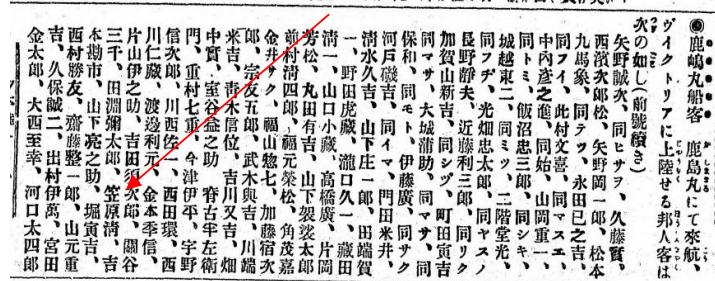
顧問 数名

監督 笠原清 主将 宮崎重市

## Kiyoshi Kasahara

He was born on 1 November 1891 and died on 9 September 1942 at Hastings Park Hospital, Vancouver, BC. 519 East 7th Avenue, Vancouver, BC is listed as a former address.

### 1919.4.10 鹿島丸にて再上陸



笠原清



1919年インターナショナル・リーグ優勝 パネル 中段真ん中



1920.4/26 朝日野球団部署

笠原；監督、3墨手

1920.7.9 笠原 2 番手朝日を去る。

△朝軍は、益守備の堅實を示してアントを安撫せしめた。笠原一壘手去つて如何と思はれた憂も前二回の好成績によつて全く忘れられた感がある。昨夕の守備に於ては伊藤三豊手、小田捕手、松宮左翼手などがよく働いて居た打撃では的場、宮崎、伊藤が好い當りを見せた。

1921.

笠原清君は昨秋ある事情のため退会しその後オーシャンフォールスの職を得て晩市を去りて以来一回も出晚せず、今年総会の当日オーシャンフォールスより電報を以て入会を希望し来りて以来、今回しかも選挙の当日突然出晚せられし事

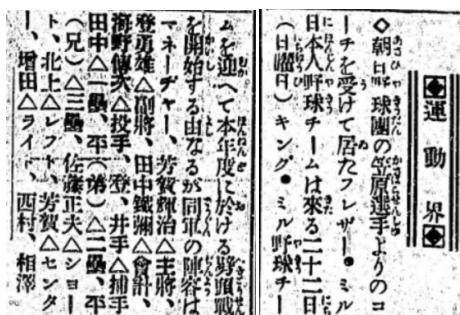
▲笠原清君は昨秋或事情のため退會し其後オーシコンフォールスに職を得て晩市を去りて以来一回も出晚せず。今年総會の當日オーシコン・フォールスより電報を以て入會を希望し來りて以来、今回然も選舉の當日突然、出晚せられし事。

笠原清は一度朝日を退団しオーシャンフォールスに行くが再び帰って来た。

## 1921 朝日タイガーの監督 笠原 一投手、2墨手兼任

晚香坡朝日野球團 役員及部署決定

1923.4/21 笠原はフレザー・ミルの日本人野球チームのコーチをしている。



### イベントの種類:死

登録番号:1942-09-611926

BC アーカイブ Mfilm 番号:B13176

GSU のフィルム番号:1953636

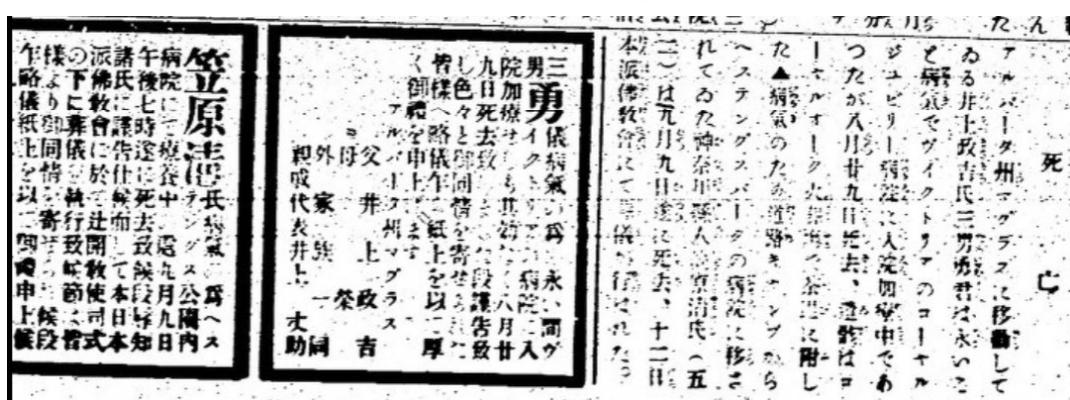
イベント日 (YYYY-MM-DD):1942-09-09

## イベントの場所:バンクーバー

死の年齢:50

人：笠原清

New canadian 1942.9.12 道路キャンプにて病氣に罹る



KASAHIKA, Kiyoshi, d. 1942-09-09, Plot: JONES--\*-19-004-0013 死亡

1942年この時笠原清の母親は日本に居た。父親は既に死亡している。

Present Address <u>Deceased (Sept. 9/42) Hast. Park Hosp.</u>	
<input checked="" type="checkbox"/> Married - Single	
Name of Wife _____	Name of Husband _____
Name of Mother <u>Japan</u>	Name of Father <u>Deceased</u>
Names of Children under 16 _____	
Requested by <u>A.M.</u>	Registered with Custodian <u>No</u> (Yes or No)

## 野村政太郎と笠原清の激論

### 朝日体育倶楽部から脱退 6名

3月9日 突然新聞に、今般、朝日体育倶楽部から 6 名が脱退し、新たに晩香波朝日野球団を組織するという報道が出た。脱退したのは笠原清、宮崎重市、伊藤準二、小田英夫、的場仁市、松宮惣太郎の 6 名で彼らは社交倶楽部で会合を開き、朝日体育倶楽部とは別の新しい組織である晩香波朝日野球団を結成し一軍をタイガー、二軍をカブスと呼ぶとした。

### 野村団長の加奈太新報への公開状

選手の脱退発表に団長の野村氏は首謀者とみなす笠原、宮崎氏に咬みつき、加奈太新報の公開欄に『江湖に告ぐ』という題目で自らの考えと今までの経緯を新聞に発表した。この報道によると当初の離脱者は松宮惣太郎を除く5名であったようで松宮は後から追随したようだ。

加奈太新報の紙面にはかなりの長文で 3 日間に渡って論陣を掲載した。

この記事は北川英三郎が残した新聞スクラップより転機したもので、以下かなりの長文であるが全文を記す。

### 加奈太新報 1921.3.16

#### 江湖に告ぐ（一） 朝日体育倶楽部 部長 野村政太郎

自分は何時もの如く倶楽部の食堂に昼食を喫すべく自席に着いた時、一通の書面が卓上に自分を待っていた。早速開封してみると、それは今回、我が朝日野球部から離脱した会員 5 名宮崎重市君、笠原清君、伊藤準二君、的場仁市君、小田英夫君、が連名、連署せる英文でしたためた退会届であった。而して退会の理由はというにそれは説明しがたいと書いてある。自分は即時、右退会届を古本セクタリーに渡し、早速臨時会議を開いて報告すべく命じた。これより先、我が古本セクタリーは各シニア選手に通知して、3月4日(右5名が退会届に連署セル前夜)午後8時選挙執行のため出頭を求めた。

自分は定刻以前に出頭して開会を待っていた。自分と前後して出席せられた会員としては、現に倶楽部に止宿せらる北川初次郎君、同英三郎君、堀居由太郎君、吉岡政次郎君、古本忠義君及び外宿の会員としては内山雄治君、米本治夫君、藤野藤太郎君等ステブストンから出晚せられた小田秀雄君等の面々を受けた。

しかるに我が野球部の主将であるべき筈の宮崎重市君が見えぬ。君は昨年度のキャプテンにして

当夜執行すべき本年度のキャプテン及びマネージャーの選挙には、たとえ今年キャプテンたるのボキャラリーなきに拘わらず、他の会員に率先して出席し、君が過去一年間野球部の重要な栄職に挙げられし会員一同の好意に対して感謝の意を表し、なお君が昨年度執つて来た方針を明らかにし、併せて今年度に対する君の希望を選ぶべきか。我が在留同胞を代表して起つ朝日野球部のキャプテンとして当然行うべき事にあるに拘らず、これまで時々会合に列した君が、当夜に限つて出席しないのは自分が全て、人知れず抱いていた杞憂「君が今度のキャプテンに選挙せられざるも尚喜々として朝日野球部のために尽くす意氣あるや否や。何故か、今年度の選挙が内訌を生ぜずして無事に済んでくればがよいが」が事実となつて現れるのであるまいかと思った。

古本セクターはわざわざ電話で君の住宅へ問い合わせたがもちろん不在であった。かれこれ時の移る間に小田英雄君は親しく自分と席を同じうして母国遠征に関する下相談をせられた。曰く、君の父君も君の母国遠征に加わることは大に賛成してくれた。但し今秋の漁業の収穫が余り多くして繁忙を極る時は遺憾ながら同行しがたい。而して収穫の大小は遅くとも8月上旬に至ればわかる。故にそれまでは未定として保留されん事を希望する云々。自分はよろしい。何れ母国遠征の件が具体的、俱楽部の会議に上る時、自分は君に変わって申し出ようと約して余談に移つた。

### 加奈太新報 1921.3.17 江湖に告ぐ（二） 野村政太郎

以下は小田君、藤野君及び自分との問答をそのまま-----

野村「小田君、時に、君の親しくしている笠原君からその後便りがあったかね？」

小田「ドクター、笠原君は今晚出て来ています。先ほど会いました。明日ドクターのオフィースに行くと云っていました。それから伊藤君も帰つて来ています。」

野村「なに、笠原君が出て来ている、又伊藤君も帰つて来たと（自分は食堂に集まる他の会員を顧みて）オイ、諸君笠原君も伊藤君も出て来ているそうだ、なぜ出席しないのだろう」

食堂にいた藤野藤太郎君は自分に向かって

藤野「ドクター、先ほどパウエル街の球場で伊藤君、笠原君、及び的場君等と一緒にいるのを見ました。やがて宮崎君が来て皆を連れ出して出ましたから、てっきり俱楽部へ来たものと思うて來ましたが来ておらぬところを見るとどこかへ行ったのでしょう」

古本セクターは自分に向かって選挙を遂行すべきや否や計られし故、自分は今晚せつかくの集会を無意味に終わらしむるは甚だ遺憾ながら一人でも多く出席したる上、選挙するにしかざれば、来る日曜まで延期すべきよう命じて散会せり。如上の事実について見るも読者諸君は

- ・宮崎重市君が選挙執行以前までは時々会議に列席したるにも不係（かかわらず）、突然選挙執行の当夜欠席したままでついに今日の挙に出たる事
- ・笠原清君は昨秋ある事情のため退会しその後オーシャンフォールスの職を得て晩市を去りて以来一回も出晚せず、今年総会の当日オーシャンフォールスより電報を以て入会を希望し来りて以来、今回しかも選挙の当日突然出晚せられし事
- ・伊藤準二君は昨秋母国を訪問せられ、近々帰晚せられし以來多忙なるゆえか未だ一回も俱楽部に出席せざる事
- ・小田英雄君は今年の総会、出席せられし以来、平時ステブストンに住居せらるるより不便よりその後一回も会議に列せずしかも選挙執行の当夜は自分と親しく母国遠征の下相談をせられし事などを明らかにし、なお

・的場仁市君は昨年ある事情の許に退会して以来、本年始め宮崎及び内山両氏の推舉にて再び入会申し込みのため出席したるほか、未だ一回も会議に列したる事なき事等を合わせて知るに及んでは、右諸君の離脱は右5名中のある一人が真に俱楽部と思うの念なくただ単に自己の不平を満たさんがため事實を捏造して他の4名を扇動し他の4名また彼の術中に陥りて、軽挙妄動したるものと推断する。躊躇せざるものなり。何人と云えども常識を誓うるものは昨秋以来一回も俱楽部に出席せざる会員乃至は一回会議に列したる会員らが『自己の主張する所がいられざるため離脱し他に理想の野球団を樹立すると』宣言するも能く信すべき者ありや。信ぜらるもなお奇貨置くべしとなしてこれ等青年を扇動する輩あるを聞くは遺憾なり。

これらの輩は我が青年を愛するに非ずして毒するものなり。獅子心中の虫なり。これらの輩にして真に我が青年を愛する者なれば何故にこれら青年に向かって自己の意見を主張せよと攻めないか愚か者の報ずるところによれば右の5名は母国遠征につき物議を生じて離脱せり云々とありたれど前章に於いて立証したる如く昨秋野球季の終りし以来一回も顔出しせぬ笠原、伊藤、的場君等に物議の生ずる理由はなし。小田君は親しく自分に君の希望を述べられし事によるも物議などあるはずはなし、但し宮崎君は時々母国遠征の件に関し下相談に預かりし事はありたれども、これまた未だ君の口より異議など主張せるを聞きし事なし。

本年は我が古本セクタリー俱楽部の日記を該当して事故の大小を問わず、詳細に記入しいども宮崎君の意義主張など記録の上に見出すことを得ず。そもそも我が朝日の母国遠征の件や先ず第一に母国の方で如何なる条件の下にプロモートしてくれるやそれを知るが先決問題なれば、過般大阪毎日新聞は某君を経て東京にある日本体育協会へは内山君を経て問い合わせたるまでにて、何れ確答を得たる上、具体的の件案と成して会議に上り、又維持会員を始め江湖に訴えんと思考しつつある時、物議を生じて離脱せりなどと妄言するは俗にゆうキツネを馬に乗せたよりもなお滑稽な話にして矛盾せりと云えども又甚しからずや。要するに我らの事は今回退会せる会員等の真意に非ずして徒らに彼らを扇動する輩が、我朝日の壮拳を傷けんとする陋劣手段なり。尚ここに我らの陋劣手段を表白して余りあるは、先般笠原清君、醉眼朦朧として我が朝日俱楽部を訪ひ、我が会員の面前に於いて「今回新しく出来た我々の方は到底承継する見込みはなけれども要は汝の方を破壊すれば足る」と生酔い本性たがわざとか。さても情けなき考えを持つ輩かな。斯かる輩が我が同胞の発展は定むべからず。3月6日我が朝日野球選手はアスレチック・パークに規定の練習を終わりたる後、臨時会議を開きて右5名の退場につき討議するところあり。

### 江湖に告ぐ(三) 野村政太郎 (加奈太新報 18.3.1921)

前章に記したる如く右5名は退場の理由を説明せずして退会届に連名連署して差し出したれば我が会員は論議を左の二項に分かつて

甲論 会則第29条 本会会委員にして退会せんと欲するものはその理由を付しセクタリ  
ーに届け出す可しに則り右5名に退場の理由を聞く事。

乙論 今更退会の理由を願う必要を認めず

論議したる結果、理事に明らかなる我が会員は甲論に多数決を示し、古本セクタリーは直ちに書面を以て右5名に宛て退会の理由を明らかにするよう申達したれども、未だ右5名より何らの回答に接せず。

一度は我が同胞運動界の花とよばるる我が朝日野球団の選手たりし彼らの行動としては、余りに矛盾なり、卑劣なり、女性的なり、しかし彼ら同氣相集まりて他に一涙を樹立したる今日、自分を始め我会員は私情を離れて新設野球団の長久を祈る者である。

但しここに一つ彼らの反省を促すべきことは如何なる意思の許に我が朝日の名を乱用するや天に

二つの朝日がなきが如く我在留同胞簡に二つの朝日野球団あるを許さず。』或いは言わん、汝は朝日体育俱楽部の野球団ならん、我は晚香波朝日野球団なりと』それは単に字句の上に於いて逃れんとする頼辞にすぎず堂々たる男子の行為に非ず。もし真に我が朝日体育俱楽部の執る方針に満足せず、他に一派を樹立して吾に対抗せんと欲するならば、源氏は白にして平氏は赤と旗色を鮮明にして陣頭に立たないか。我らの祖先が壇ノ浦に正々堂々と名乗りを上げて戦いたる事を忘れてはならぬ。

終わりに臨みて自分は一つの〇〇を以ってこの記事を終わらんと欲す。曰く朝日体育俱楽部と祥する石や煉瓦及び木片を以って建てられた一つの家があった。さもしい心を持った一人の男がこの家の保管者の隙を盗んで扇動という悪い風の吹荒ぶのを好機会としてこの家に火をつけた。

木片の部分は皆焼け落ちてしまった。しかし土台の石や壁の煉瓦はピクともしない。その所でこの家の保管者は今度この家を修繕するのにはマッチ 1 本で火のつくようなそんな貧弱な木片を以って修繕するよりも、今びくともしないで残っているような強固な石や煉瓦で修繕しようと考えている。この家の持ち主も必ず保管者と同感であると自分は信じる。

巷間伝わるところによれば新たに樹立された一派の中にもすでに内訌を生じ今回の退会者 5 名の中にも我が朝日に帰心矢の如き者あるを聞いた。しかし今から断つておくが 1 本のマッチで焼けるようなそんな薄っぺらな木片で帰って来ても我々は決して歓迎しない。石や煉瓦となって帰り、今残っている善良なそして強固な者等と協力一致して我が朝日の目的とする体育を奨励し、心身の練磨と高尚なる品性を養成する事に努めよと思えば煽動という風も悪い。もしくら吹きすさんでも火をつけねば火事にはならぬ。故にどうしてもこの放火犯人だけは許すことは出来ない。否こういう犯人を許すほど我が同胞の制裁力は鈍っているとは考えられぬ。

自分は以上の如く赤裸々な事実を披瀝して江湖の公平なる批判に訴えた次第である、がしかし自分はこの一文によって自分の罪を覆うわんとするものではない。多数同胞先覚者より多くの善良なる青年を造るべく期待されていた我が朝日体育俱楽部に叙上の如き内訌を生じて 5 名の離脱者を出したと言う事は要するに自分の不徳の致す所である。自分はこの際江湖にその罪を深く謝する次第である。

この野村政太郎の発言内容を要約すると下記のようになると思うのだが、その背景には日本遠征問題の蠢きがありつつ、野村団長は反発している徒党に多くの不信感を訴えているようである。

- 1.会議に出席しなかった人達への不満と動向の詮索
- 2.宮崎重市のキャプテンとしての責任
- 3.退会者の退会理由の開示要求
- 4.新組織の名称への難癖
- 5.退会者の再受け入れ拒否

加奈太新報で野村政太郎が述べたこの公開発言について、パウエル街の読者は朝日が分裂した以上に選手内部の抗争を見せられ、朝日の先行きを心配すると同時に選手達の精神状態をも危惧している。この現況を見かね、赤川牧師は野村政太郎を訪ね朝日の分裂は何とか回避出来ないかと調停に乗り出し説得したが、野村団長はこの事態を受け入れず赤川牧師の調停は徒労に終わった。事態はそれほどまでに深刻になっていたのである。

次いで、名指しで批判を浴びた笠原清は同じ加奈太新報に野村団長の「江湖に告ぐ」の発言に嘔みつくように異議を申立て、整然と反撃した。

加奈太新報の読者達は双方の意見を賑やかに注視し、事の成り行きを見守っている。

## 笠原清監督の公開返答

野村政太郎君足下に興う（一）朝日野球団 監督 笠原清

### ・朝日体育倶楽部部長野村政太郎君足下

足下が加奈太新報紙上に於いて連日掲載せる『江湖に告ぐ』を読みて、余は当面の責者として該問題に関する一書を呈する。受けたまわるに吾人の御ひいきを去り、足下の□□□得ば足る。(□□□:文字不明)

### ・毒草には美しき花が咲く

毒のある草程美しい花が咲く、そは己の醜を覆わんとする軽薄なる卑劣なる表現ではないか。足下が紙上に公開せる「江湖に告ぐ」の如きも、唯それ己の非を覆いて、世人の同情を得んとする下劣なる心情より出でたるものなるを思えば、足下のため實に悲しむべし。されど世人はかくのごとき劣等なる手段によって瞞着せらるべく、あまりに聰明なるを如何せん。

### ・倶楽部は果たして何人のものなるや

野村君足下 朝日体育倶楽部は在留同胞の同情と声援とによって起つ、言い換えれば在留同胞を代表する野球団である事は敢えて余の演説する迄もなき事であろうと思う。しかるに足下は倶楽部を己が特有の如く心得、その統御は專制を極め、会員に対する温情なく横暴と圧制をほしいままにし、為に部内は絶えず風波生じ問題を放棄する事一再にとどまらざるにあらずや。余はここにその一、二の例を引用せんか。

### ・奇怪なる内山君の入団

野村君足下 足下が言行常に一致せざるを惜しむ。内山君は昨年シアトルより「幹事およびプレーヤーを辞す」の書状を寄せた事ありき。而して種々なる事情のため部員はもとより多くの維持会員より反感を買いいれる事は事実なり。されば如何なる意味よりするも本年は再び部員たるべき資格なきものと信じ至りしに、事実は再び部員として待遇せられいるは頗る奇怪なり。内山君は足下の腹心の配下であるが故に、専断の処置に出でたるものないと云うも敢えて過言にあらざるべし。

野村政太郎君足下に興う(二) 〈承前〉 朝日野球団 監督 笠原清

### ・眞の意味に於ける推挙に非ず

野村君足下 足下は本年一月の総会において再び部長に選挙せられたるものなりと聞く。されど何が故に本年総会において維持会員に通達状を出してその出席を望まざりしや。会則を見るも維持会員は同倶楽部に多大な義務と責任を有するものなるにあらずや。而して部長の選挙は唯僅かに己の腹心にある十数名のプレイヤーと二三の維持会員とによって行われたというに至ってはその推挙も眞の意味に於ける推挙に非ず。会計報告の如きも未だ嘗てこれを公表せる事あるを聞かず。不正の有無に拘わらず多数の維持会員と同胞との同情によって成り立つ倶楽部である以上、その会計の如きは折々これを公表して己れの責任を明らかにすべきこそ当然なる義務

なりと思惟す。

#### ・体育は営業本位に非ず

野村君足下 朝日体育倶楽部の主意が前述の如くにして決して営業本位にあらざるは賢明なる足下の御承知の事ならむ。今秋故国に遠征を企てたる足下の方針は多数の白人を加入して爾来、倶楽部のために努力せる邦人のプレイヤーを引率せぬとは果たして如何なる理由なるや、余の甚だ解せざるところなり。

伊藤君の如きは倶楽部に於いて二季迄も奮闘し、しかも足下自ら同君の出馬を懇願せしものなるに、しかも本春二月再渡航して現に晩市に在るを知りながら渡日に関して何ら計る所なく、彼に変わるに一白人を以ってすと真に愛と誠なき者と云うべし。また某倶楽部員は「伊藤の如きはプレイヤーとして型になって居らず日本に連れて行くは我が朝日の対面に瀕する」と壯語せり。今秋故国に遠征する貴倶楽部員が果たして型になっているや否や疑問なり。余は上戸なれば眼の錯覚たる事もあらん。されど足下の如くシラフにて心の錯覚たるは誠に奇觀なり。

#### 野村政太郎君足下に興う(三) 〈承前〉 朝日野球団 監督 笠原清

足下は云わん。「日本への遠征には波の丹然せる白人をせざれば人気なく収入少なし」と。されど体育は打算に非ず。利益のみを主として会員の感情を害してまでも遠征の何の必要があらん。体育倶楽部部長であるべき足下は卒実に於いて先の如く体育を無視し德育を無視す。

#### ・吾等の離脱は吾等の目覚め

論じ来れば足下の不明は實に枚挙にいとま非ず。吾等はかくの如く無知にして不明なる足下の配下にあって總てを隠忍し盲従して今日に及ベリ。されど今や漸く足下を賓斥する声多く実に与論と離れて、足下は吾々今回の離脱を「或るもののが單に自己の不平を満たさんため他の四名を扇動し云々」の如く推断しあれども、そは余りに己を知らざるものと言うべきものなり。吾等は足下の下にあって体育の発展、德育の修養に当低進歩せざるを自ら覺れり。吾等の離脱は自然であり、われらの離脱は吾等の目覚めである。

#### ・血迷いしか野村政太郎君

足下は「江湖に告ぐ」に於いて、本月四日の集会に吾等の欠席に対して倶楽部に対して誠意なきものとして愚説を以てタドタドしく書きたてたるが、当夜の集会に正式に足下より通知を受けたるものは五名のうち小田君一人のみにして、他の四名は集会の有無さえ知らざるなり。自ら通知状さえも發せずして欠席呼ばわりはまだしも「人知れず杞憂」云々と憶測をほしいままにしたるは足下もやや血迷いしか。又曰く『如何なる意思の許に我朝日の名を乱用するか天に二つの旭なきが如く在留同胞間に二つの朝日野球団あるを許さず』とあるに至っては足下も逆上その極みに達せりといふべしか。天に二つの旭は無し、されど在留同胞間に旭の名は多し。曰く旭床、曰く旭精米、朝日タキシ、曰く日の出麿とこれ我が國の表『旭』なるが故ならむ。我が野球団が『朝日』の名を引用せるも他意あるにあらず。

#### ・潔く足下の引責を望む

野村君足下 足下は又「この一文によって自分の罪を覆わんとするものではない」と言い「叙上の如き内訌を生じたのは要するか自分の不徳の致す所である」と云つて居る。そは在留同胞の等しく認むる所にして、足下の又氣はかれたる所なり。足下は潔く部長の職を抗ちて江湖にその罪を深く謝すべきであろう。

笠原清は實に明快に主張を述べ、聰明さを感じる。さすが監督として選ばれただけのことはある。2014年の映画「バンクーバーの朝日」で妻夫木聰が演じた主人公レジー笠原が発していた言動のウ

ジウジさは全くなく、笠原清監督の発言はこの時代の若者を代表していたのではないかと思う。次に内山雄治が笠原清の発言に対し一部訂正を要求して述べているので下に記載するが、やはり自己の立場を明確に決め、自らの正当性の主張を見ると映画で受けた選手達の印象とは大きくかけ離れた人達である。

### 内山雄治の一言

加奈太新報 1921.3.26

#### 笠原清君の取り消しを請う 朝日体育倶楽部普通会員 内山雄治

去る3月24日、本紙上公開上晩香波朝日野球団マネージャー笠原清君の寄書『朝日体育倶楽部内の紛擾に対して野村政太郎足君足下に興う』の一文中奇怪なる内山君の入団と題する一項は事実相違の点ありを思えば維持会委員及その他後援者の誤解を除ぐため一言説明いたすべく候

笠原君の一文その物が好く説明し居る如く「幹事及び選手」と普通会員とは別個の問題にして昨年小生がシアトルより「幹事及びプレーヤーを辞す」との書状を部長に渡せたるは事実なれども「幹事及び選手」を辞したるが故に会員たるもの資格なしと断ぜられる候事はやや主張者の心事も計り知れて全く事実に反するのみならず、感情のために公私を混同し居られるとやに見受けられ候。即ち改めと笠原君のご承認を得たきは昨年小生は幹事及び選手を辞任したものにして以前普通会員としての待遇を受け居る一時に御座候。

尚、小生を以て野村氏の腹心の配下と目されたるは無理ならむご判断にては候へども、そは昨年の事にして、小生幹事をして在任中の関係を意味せらるるものと存じ候。しかも部長を補佐するべく設けられたる幹事が部長の腹心の配下ならずんば部長はそも何人を信すべきかと存じ候。しかも小生を幹事に選挙したる者の中に貴下を始め数人の脱会者も含まれたるには御座なく候や。百歩を譲って「幹事は部長の腹心の配下足るべからず」としても野村氏と小生とは個人としても可成りに異なった主張と趣味とを有するものに御座候。小生が氏の主張に反抗して卓を打つて議論一時を越したる事さえもしばしばこれあり候。ただ正を正とし不正を不正として取り扱う点に於いては氏の主張とは偶然一致致し候。しかし、こは笠原君といえども勿論御賛成の事と存じ候。御同様良心の所有者として小生は平和を望む者に御座候。戦うも好し、戦はざるに勝る、しかしそは各自が各自のベストを尽くすことによって始めて意義を見出すべく、自己の安寧を得るために他を迫害する事は小生のとらざる所にて御座候。終わりに臨み貴下及び貴団の御発展を祈り候。